相　双
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

No.１８　２０１８年５月
福島県相双農林事務所

メニュー

◆今泉所長　着任あいさつ
◆第69回全国植樹祭ふくしま2018大会がまもなく開催！
◆全国植樹祭ふくしま２０１８「木製地球儀」引継式
◆楢葉町の緑の少年団が活動再開
◆葛尾村の特産品「じゅうねん（エゴマ）」栽培が７年ぶりに再開
◆「田んぼの学校」交流促進事業による田植え体験活動
◆楢葉町カントリーエレベーター及び自動ラック式米農業用低温倉庫整備事業建設工事、楢葉町水稲育苗センター整備事業建設工事起工式
◆大熊町イチゴ栽培施設起工式
◆東日本大震災の災害復旧工事の進捗状況
◆『６次化先進地視察研修 in 宮城～』
◆“おいしい ふくしま いただきます！”キャンペーン
◆相双農林事務所からのお知らせ

今泉所長　着任あいさつ

<今泉耕治相双農林事務所長>

このたび、４月の人事異動で福島県相双農林事務所長に着任いたしました　今泉耕治　と申します。相双地方での勤務は初めてとなります。どうぞよろしくお願いします。

震災から７年が経過し、これまでの関係者の皆様の懸命なご努力により農林業の生産基盤の復旧が目に見えるものとなってまいりました。一方で、避難指示解除や特定復興再生拠点区域の設定などの動きがあることから、それに併せた復旧工事等に適切に取り組み、復興・再生を更に加速してまいりたいと考えております。

着任後、現場を歩かせていただいた中で、原子力災害による厳しい生産環境の中、新たな作物の栽培に挑戦し、災害の影響を克服しようと動きだしている農業者の方とお話をする機会があり、力強さに感じ入り、その努力が実るよう支援をしていかなければならないと改めて感じたところです。当地方での冬期間の温暖な気候や多様な社会経済的条件等を十分に活用し、震災・原子力災害を克服し新たな農林業が展開されるようしっかり支援してまいります。

農業で見れば、田に稲が作付けされ、畑で野菜などが栽培されているという当たり前の光景が戻り、そこで農家の皆さんが生き生きと働いている姿が周りから目に見えるようになることが大切であり、農林業の復興こそが、地域の再生・活力に結びつくと考えております。そのためには、当地方の農業は依然として厳しい条件の中にありますが、地元の皆さんが担い手の確保や農地利用の方向について話し合いを進め、将来の地域の農林業の姿を描き、その実現に向けて我々農林事務所の職員が関係者の皆さんと一丸となって進んでいくことが重要であると認識しております。最も大きな課題である担い手の確保に関しては、県内でも阿武隈の中山間地域や奥会津地方において、様々な工夫・取り組みにより県外からの参入者が増加している例もあり、是非取り組みを進めていきたいと考えております。

今後も、地域の皆様の声に耳を傾け、一緒に考え、復興にかかる様々な制度を十分に活用し、大区画ほ場の整備や営農体制づくり、ＧＡＰ推進による風評対策、地域産業６次化、森林の再生整備と林産物の生産拡大に取り組み、相双地方の農林業の活性化に力を注いでまいりますので、皆様のより一層のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第 69 回全国植樹祭ふくしま 2018 大会がまもなく開催！

第 69 回全国植樹祭ふくしま 2018 大会の開催日、６月 10 日（日）がまもなくとなっています。

大会会場は、東日本大震災の津波被災地ですが、会場の整備とともに周辺の県道の改築やほ場・海岸防災林・防潮堤の整備も進み、大会当日を待つのみとなりました。

各リハーサルも大会会場で実施され、特に５月 13 日に行われた総合リハーサルでは、すべての出演者が参加し、本番さながらのプログラムが行われました。夕方には雨が降り出しましたが、演技、演奏、進行とも完成度が高く、当日の大会が待ち遠しくなりました。残された時間はわずかですが、出演者のみなさんや進行スタッフと共に、大会の大成功に向けてさらなる準備をしていきますので、参加される方は楽しみにお待ちください。

また、当日は、サテライト会場（フォレストパークあだたら（大玉村））、PR 会場（福島駅前、郡山駅前、白河駅前、会津総合運動公園）、南相馬会場（鹿島生涯学習センター、市民文化会館ゆめはっと）でも式典の中継や各種イベントを実施しますので、是非お越しいただき、みなさんで盛り上がりましょう！お待ちしています！！ （森林林業部）

総合リハーサルの状況
（メインアトラクション）

大会会場（式典会場及び植樹会場）の
整備状況（H30.5.10 現在）

天皇皇后両陛下がお座りになるお野立て所

第69回 全国植樹祭 ふくしま 2018
育てよう 希望の森を いのちの森を

全国植樹祭ふくしま２０１８「木製地球儀」引継式

平成３０年４月１７日（火）、南相馬市役所本庁舎１階ホールにおいて、木製地球儀の引継式が開催されました。

この木製地球儀は全国植樹祭のシンボルであり、昨年６月より県内全市町村で巡回、展示が行われ、南相馬市で開催される「第６９回全国植樹祭ふくしま　２０１８」を広くＰＲしてきました。そして今回、最後の巡回地となる南相馬市に到着しました。

引継式では、全国植樹祭のパネルやのぼりとともに木製地球儀がお披露目され、今泉相双農林事務所長から門馬南相馬市長に手渡しにより引き継ぎが行われました。今泉所長より「多くの皆様に木製地球儀をご覧いただき、全国植樹祭の機運を盛り上げたいと考えております。ご協力をお願いします。」とお話があり、門馬市長から「開催地として市をあげて植樹祭を盛り上げていきます。」とのお話をいただきました。

今泉所長(右)から門馬市長(左)への引き継ぎ

木製地球儀

全国植樹祭は南相馬市の方々をはじめ、県民の皆さんのご支援をいただきながら、大会の成功に向け準備が進められています。

（森林林業部）

楢葉町の緑の少年団が活動再開

東日本大震災及び原子力災害の影響で７年間活動を休止していた楢葉北小学校緑の少年団、楢葉南小学校緑の少年団の結団式が５月７日（月）に行われました。

結団式には、楢葉北小学校及び楢葉南小学校の全児童６８名が参加し、「緑を守り、緑を育て美しい郷土をつくることに努めます」と誓いました。

翌日の５月８日（火）には、緑の少年団活動として、Ｊヴィレッジの多目的広場に芝の苗を植えました。

※「緑の少年団」とは森林や緑に関する学習活動、公共施設の緑化などの社会奉仕活動、キャンプなどのレクリエーション活動を通じて、自然を愛し、人を愛し、自らの地域社会を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした子どもたち主体の団体です。（富岡林業指導所）

「誓いの言葉」

「入団記念品贈呈」

葛尾村の特産品「じゅうねん（エゴマ）」栽培が７年ぶりに再開されました

東日本大震災及び原子力災害により中断していた葛尾村のじゅうねん（エゴマ）の栽培が７年ぶりに再開され、収穫したエゴマを使った加工品の製造、販売がスタートしました。

平成２９年から葛尾村と復興まちづくり協定を結んだ郡山女子大学の学生が、葛尾村の７件の農家と協力して、約１haの面積でエゴマを栽培しました。６月中旬に畑にエゴマの苗を植え、１０月中旬から順次収穫作業が始まりました。一部の畑は水田を転作したものであったため水はけが悪く、収量が落ち込んだり、長雨の影響で適期に収穫作業が行えなかったりするなどの課題はありましたが、震災前の１．６培となる子実約５００ｋｇを収穫することができました。

収穫したエゴマは、葛尾村の農家を中心に構成される葛尾じゅうねん企業組合によって加工され、葛尾村の銘菓であった「お大尽様」として平成３０年４月２４日から販売が再開しました。葛尾村内のマルイチ商店、ヤマザキＹショップヤマサ、石井食堂などで販売されています。（双葉農業普及所）

販売が再開されたお大尽様

郡山女子大の学生が葛尾村でエゴマの栽培に取り組みました

「田んぼの学校」交流促進事業による田植え体験活動

平成３０年５月１６日（水）に、いわき市立渡辺小学校の児童と同市に避難する双葉南小学校・双葉北小学校の児童が一緒に田植えを体験しました。

子どもたちは、泥だらけになりながらも地元農家の協力の下、約３アールの水田にもち米の苗を植えました。当日はテレビ局や新聞各社から取材を受け、多くのメディアに取り上げられました。

田植え以降はカカシの製作や稲刈り、収穫祭を予定しています。（農村整備部）

田植えをする子どもたち

渡辺小学校近くの水田

楢葉町カントリーエレベーター及び自動ラック式米農業用低温倉庫整備事業建設工事、楢葉町水稲育苗センター整備事業建設工事起工式が開催されました

平成３０年４月１８日（水）に楢葉町上小塙地区において、楢葉町カントリーエレベーター及び自動ラック式米農業用低温倉庫整備事業建設工事、楢葉町水稲育苗センター整備事業建設工事起工式が開催されました。

楢葉町は、基幹作物であった稲作を再生するための施策として、農業用施設整備を重点項目として掲げており、福島再生加速化交付金（被災地域農業復興総合支援事業）を活用することにより、整備が実現することになりました。

完成予想図

鉄骨２階建てカントリーエレベーターの貯蔵能力は約1,000t で、面積にすると約 150ha 分の籾を保管できます。水稲育苗センターは対象面積を 100ha として、年間 20,000 箱の処理能力を備えています。

東日本大震災及び原子力災害から７年が経過しましたが、産地の生産力と競争力の強化を図ることが、重要な課題となっている中、今回の施設整備は、稲作による営農再開を始め、水田を中心とした地域農業の再生を力強く後押しするものとして期待されています。

（農業振興普及部）

起工式で祝辞を述べる今泉相双農林事務所長

大熊町イチゴ栽培施設起工式が開催されました

平成３０年３月２６日（月）に大熊町大川原地区において、大熊町イチゴ栽培施設の起工式が開催されました。

施設は、大熊町が福島再生加速化交付金（被災地域農業復興総合支援事業）を活用して整備し、運営可能な事業者へ貸与し、生産・販売などを行う計画となっています。

平成３１年３月の完成を予定しており、約４．８ha の敷地に約２ha の太陽光利用型耐候性鉄骨ハウスを建設して、高設養液栽培方式で、「一季成り」と「四季成り」のイチゴを栽培します。

完成予想図

ハウスには、温度や養液供給を自動で管理するシステムを導入します。

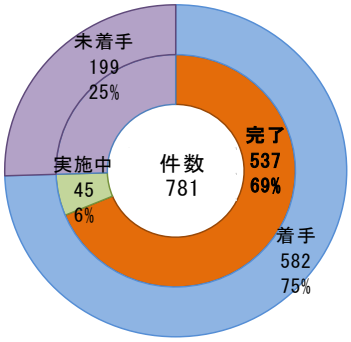
また、ハウス以外にも選果棟や管理棟などの施設も併設します。

当該施設の整備は、東日本大震災及び原子力災害からの復興・復旧に向けた農業再生の第一歩として、被災地での農業を再開したいと考える人の希望の光となるものであり、営農意欲の創出、帰還促進、雇用の確保、農業担い手の育成につながるものとして期待されています。（農業振興普及部）

佐竹農林水産部長鍬入れの様子(右から２人目)

東日本大震災の災害復旧工事の進捗状況（H30.３月末）

東日本大震災で被害を受けた農地、農業用施設の災害復旧の進捗状況は、市町村営事業の約７５％で工事に着手し、約６９％が完了しています（右図参照）。



資材や労働者不足、周辺の復旧・復興事業や除染事業との調整のため未だ着手できない箇所がありますが、着手した箇所については概ね順調に工事が進んでいます。県では避難指示が解除となった区域の災害復旧が早期に進むよう、被災調査や災害査定を支援してまいります。

県営事業では、海岸災害復旧事業を１６海岸（１５,９８０m）で行っており、約６２％の進捗となっています。また、農業の再生・復興のため津波被災地等におけるほ場整備を１６地区（1,９０７ｈａ）で行っており、約６０％の進捗となっています。（農村整備部）

施設災害復旧事業(23 年災)　家老地区（富岡町）
ため池復旧工事　竣工写真(平成 30 年２月撮影)

復興基盤総合整備事業　右田・海老地区（南相馬市）
ほ場整備工事　竣工写真(平成 30 年３月撮影)

『第３回そうそう・６次化推進セミナー～６次化先進地視察研修 in 宮城～』を開催しました

平成３０年３月７日（水）に宮城県で意欲的に６次化に取り組む事業者との交流をとおし、アグリビジネスとしての６次化について学ぶ、先進地視察研修会を開催しました。

はじめに、宮城県登米市の有限会社伊豆沼農産を会場に、同社の佐藤裕美企画室長から会社の成り立ちから今後の事業展開について説明を受け、その後、大崎市のよっちゃん農場 高橋博之代表 から取組事例の説明を受けました。このほか、伊豆沼農産の生ハム工房や直売施設等の見学を行いました。

次に、遠田郡美里町にある農家レストラン「野の風」へ移動し、当レストランを経営する、株式会社はなやか 伊藤恵子代表取締役 から、農産物の加工販売だけでなく、農業体験等の結びつけについて説明を受け、その後、農産物直売所花野果（はなやか）市場の見学を行い、研修を終えました。

参加者からは、「地域に密着した取組内容がたいへん参考になった」、「６次産業化だけでなく、これからの農業のあり方として参考になった」などの声が多数寄せられ、有意義な研修となりました。（企画部）

(有)伊豆沼農産での研修の様子

よっちゃん農場高橋代表との研修

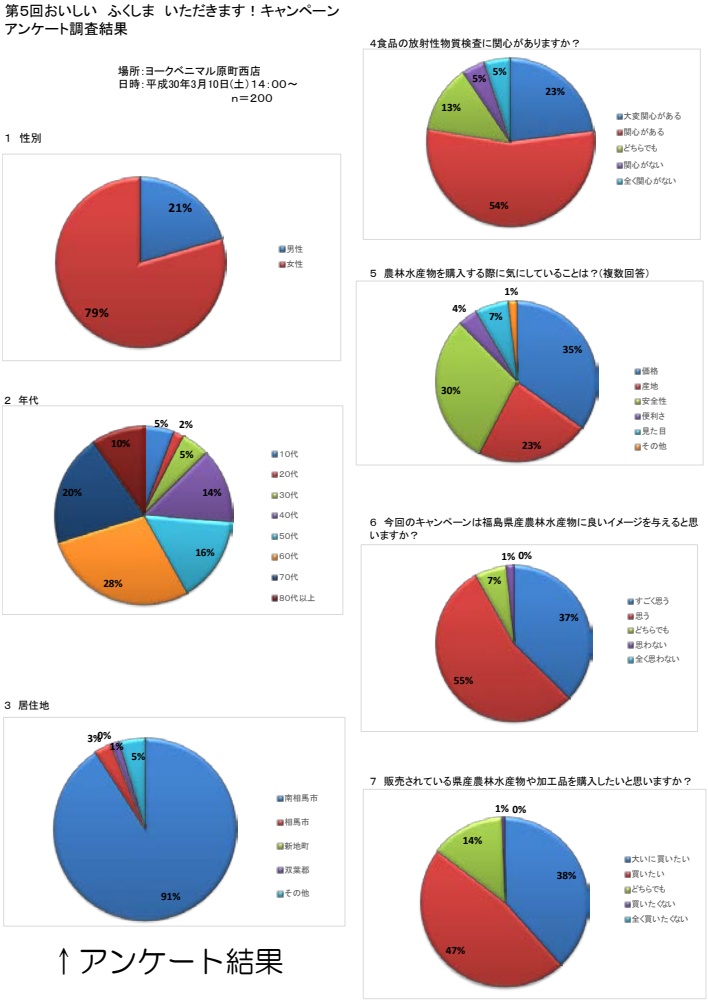
(株)はなやか伊藤社長との研修

“おいしい ふくしま いただきます！”キャンペーンについて

平成３０年３月１０日(土)に南相馬市のヨークベニマル原町西店において、県産農林水産物の風評払拭と販売促進を目的とした、”おいしい ふくしま いただきます！”キャンペーンを開催しました。

このキャンペーンでは、安全対策に関するリーフレットを配布し県産農林水産物の安全性をＰＲするとともに、お客様の放射性物質検査への関心度合や県産農林水産物のイメージについてアンケート調査を行い、ご協力いただいたお客様には、新地町産ミニトマトをプレゼントしました。

アンケート結果から、約８割の方が放射性物質検査に関心をもっており、農林水産物を購入する際は、価格、安全性、産地の順に関心が高いことがわかりました。



↑アンケート結果

そして・・・！！

平成３０年度第１回“おいしい　ふくしま　いただきます！”キャンペーンを以下のとおり開催します！！

この機会に、安全・安心な県産野菜をご賞味ください。

開催日：平成３０年６月２３日(土)
　　９：３０から１４：００
　　（野菜がなくなり次第終了）
場　所：ヨークベニマル原町西店
内　容：店頭での県産農林水産物の安全対策に関するリーフレットの配布。
　　店内特設会場において、店頭で配布したリーフレットを持参いただいたお客様、先着７００名の方に県産野菜をプレゼント！

皆さまのお越しをお待ちしております。

（企画部）

相双農林事務所からのお知らせ

◆そうそう・６次化ネットワーク会員募集中！！

自分で栽培した農産物を加工し、商品として売りたい生産者の皆様！地場産農産物を使って商品を作りたい加工・製造業者の皆様！そういった６次化商品を取り扱いたい流通・販売業者の皆様！あるいは「６次化って何？」というあなた！

そうそう・６次化ネットワークに加入してみませんか？？そうそう・６次化ネットワークは、相双地域で６次化に取り組まれる事業者の方を応援する会員制の組織です。登録料や会費は無料です！！

会員特典

①事業者との交流

そうそう・６次化ネットワーク会員を対象に、会員同士の交流の場を設ける「交流会」を年２回程度開催しております。（講演会やセミナー、６次化商品の試食・求評会など。）

②６次化商品販売会の実施

道の駅や直売所、スーパーなどにおいて、６次化商品の販売会を複数回実施します。

消費者への対面販売により、消費者の生の意見を聞くことができ、商品の改善に役立ちます。

③各種情報提供

ネットワーク会員向けに、商談会や物産展などの出展案内や各種助成制度など、事業者の皆様に有益な情報を随時提供しています。

④相談受付・支援

６次化に関する些細な相談から、こういう商品を作りたい、こんな加工ができる事業者を紹介してほしいなど、相談を随時受付しております。必要に応じて、専門家の現地派遣等の支援を行います。

少しでも興味のある方は是非ともご加入ください！！

申込・問い合わせ先：福島県相双農林事務所　企画部　地域産業６次化担当まで

電話（直通）０２４４－２６－１１５３

※６次化（地域産業６次化）とは

→本県の豊かな農林水産資源を基盤として、１次・２次・３次の各産業分野において、多様な主体が自らの強みを生かして他産業にも分野を拡大し、または相互に連携・融合しながら付加価値を向上・創造する取組のことを、「地域産業６次化」と定義しています。

◆双葉農業普及所移転のお知らせ

双葉農業普及所は、広野町内の仮設庁舎で業務行っておりましたが、平成３０年４月１日から富岡町内の元の庁舎で業務を再開しました。

＜双葉農業普及所＞

住所　〒979-1111　双葉郡富岡町小浜４８１番地

電話（代表）　0240-23-6472　　Fax　0240-22-2560

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

福島県相双農林事務所　企画部　地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
Tel：0244-26-1153　Fax：0244-26-1181
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/
E-mail　kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp